



令和元年 7 月 1 6 日 (火) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
農政課	スマート農業推進室 スマート農業推進係	高木・福井	内線 2818 直通 058-272-1562 FAX 058-278-2680

当日連絡先：高木携帯 090-2180-1370

スマート農業の展開について ～「スマート農業サミット in ぎふ」の開催～

県ではICTやロボット技術を活用して経営規模拡大・高品質生産を実現するスマート農業の推進に向けて、全国に先駆けて今年3月「岐阜県スマート農業推進計画」を策定し、生産性や収益性の高い産地づくりを目指して、スマート農業技術の普及を強力に進めています（別紙参照）。

この取組みを、スマート農業の実践を目指す農業者等に広く理解していただくため「スマート農業サミット in ぎふ」を下記のとおり開催します。

記

1 講演会

日時：令和元年8月2日（金） 13：30～15：30

場所：ソフトピアジャパンセンタービル1F セミナーホール
(大垣市加賀野4丁目1番地7)

内容：

主催者挨拶 13：30～13：45

基調講演 13：45～14：45（参加定員200人）

（テーマ）スマート農業の現状と今後の展望

（講師）北海道大学大学院農学研究院副院長・教授 ^{のぐち}野口 ^{のぼる}伸氏*

取組発表（14：45～15：30）

(1) 岐阜県のスマート農業推進の取組み

説明者：岐阜県農政部次長 ^{こみや}小宮 ^{ひでとし}英稔

(2) スマート農業に取り組む生産者等による事例紹介

① 高度輪作体系（3年5作）による超低コスト輸出用米生産の取組み

発表者：（農）巢南営農組合 理事 ^{えび}江尾 ^{やすゆき}泰之氏

② 環境制御技術を活かしたトマト生産

発表者：（株）東馬場農園 代表取締役 ^{ひがしばば}東馬場 ^{さとし}怜司氏

③ スマート農業技術の最新の研究動向

発表者：農研機構 農業技術革新工学研究センター

^{すぎもと}スマート農業推進統括監 ^{みつほ}杉本 光穂氏

2 実演会

日時：令和元年8月2日（金） 11：00～11：45

場所：（農）巢南営農組合実証農場（瑞穂市宮田 150 番地）

※講演会場と実演会場間はバスで送迎

内容：ロボットトラクター（（株）キセキ）のデモンストレーション

自動飛行農業用ドローン（（株）ナイルワークス）のデモンストレーション

質疑・応答

3 展示会・パネル展示

日時：令和元年8月2日（金） 10：00～16：30

場所：ソフトピアジャパンセンタービル1F ふれあい広場・屋外

（大垣市加賀野 4 丁目 1 番地 7）

内容：出展企業との個別ブースでの相談（20社）

ロボットトラクターやドローン、アシストスーツ、施設環境制御システムなどを展示

出展企業一覧（50音順）

（株）キセキ関西中部、イノチオアグリ（株）、ウォーターセル（株）、（株）笑農和、国際航業（株）、積水化学工業（株）、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、ソリマチ（株）、（株）東海近畿クボタ、トヨタネ（株）、ニシム電子工業（株）、日本電気（株）、パナソニック（株）、富士通（株）、ボッシュ（株）、三菱マヒンドラ農機（株）、ヤンマーアグリジャパン（株）、（株）AIR ロボ、（株）IT 工房 Z、（株）NTT ドコモ

パネル展示

県の施策紹介、県内優良事例、国事業「スマート実証農場」紹介等

※講師プロフィール

1990年北海道大学大学院博士課程修了。農学博士。同年北海道大学農学部助手。1997年助教授、2004年より教授。現在、農学研究院副研究院長・教授、内閣府 SIP「次世代農林水産業創造技術」プログラムディレクター。また、池井戸潤氏の作品で TBS ドラマ「下町ロケット」において技術監修を務める。専門は生物環境情報学、農業ロボット工学。スマート農業に関する研究に従事。

（申込・問い合わせ先）

7月23日（火）までに、以下へ申し込みください。

〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南 2 丁目 1 番 1 号

岐阜県農政部農政課スマート農業推進室スマート農業推進係

TEL：058-272-1562（直通）FAX：058-278-2680

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

（Web 検索キーワード：岐阜県スマート農業）

岐阜県スマート農業推進計画（2019年3月策定）について

《目指すべき将来像》

- ①少ない人材での経営規模拡大の実現
- ②経験年数等にかかわらず誰もが取り組みやすい農業の実現
- ③単収の向上、高品質生産及び付加価値向上の実現

《5年後の目標》

項目	目標年次（2023）
スマート農業技術導入経営体数	550 経営体
スマート農業に取り組む産地数	10
新たな栽培支援技術の開発数	5
スマート農業推進拠点における展示会・実演会等の開催数	15 回
スマート農業技術研修及びセミナー等受講者数	5,000 人

《今年度の主な取組みと予定》

○スマート農業技術の導入効果の「見える化」

- ・ 2019年3月、国のモデル事業に、農事組合法人巣南営農組合（瑞穂市）の事業が採択
- ・ ロボットトラクターやドローンなどのスマート農業機械を活用して、輸出用の米を低コストで栽培するための実証を実施。
- ・ 実証に当たって、関係機関でコンソーシアムを設立。
〔構成員〕岐阜県、（農）巣南営農組合、JAぎふ、JA全農岐阜、
（株）東海近畿クボタ、（株）キセキ関西中部、（一社）岐阜県農業会議。

○スマート農業機械の導入に係る助成制度の創設（2019年4月）

- ・ 農業者が、スマート農業技術を活用し、経営発展・改善を目指す際に必要となる機器・機械等（ロボットトラクター、ドローン、アシストスーツ等）の導入を支援。
- ・ 補助率：1／3、上限：3,000千円

○スマート農業サミット in ぎふの開催（2019年8月2日）

○岐阜県スマート農業推進員の育成

- ・ スマート農業の基本的な考え方を理解し、農業者等へスマート農業技術の紹介を行う人材。
- ・ 今年度は、普及指導員や農協の営農指導員を対象に100名以上を育成予定。

○岐阜県スマート農業専門員の育成

- ・ 専門分野（水稻、トマト、いちご等）ごとに、農業者へスマート農業技術の導入支援及び導入後の指導ができる人材。
- ・ 今年度は、普及指導員を対象に30名を育成予定。

○スマート農業推進拠点の整備（オペレーション棟（仮）、モデル温室）

- ・ 県就農支援センター（海津市）内に、最新の機器・機械の利便性を体験できる「オペレーション棟（仮）」、トマト栽培に適した温度や湿度等を自動制御する「モデル温室」を、来春を目途に整備予定。